

平成 21 年度

事業所名 : 認知症老人グループホーム柿の木ホーム

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370200297		
法人名	社団医療法人 新和会		
事業所名	認知症老人グループホーム 柿の木ホーム		
所在地	〒027-0063 岩手県宮古市山口五丁目3-30		
自己評価作成日	平成21年10月1日	評価結果市町村受理日	平成22年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から8年が経過、利用者の平均年齢は90歳、介護度も年々重くなっている。『できること』が徐々に減っていく中において、今日出来た事が明日も出来ることを目標に『日常生活動作の何か一つ』の「できる」が1日でも長く続けられるよう 好きな事が一日の中で短時間で確保でき、楽しいと感じられるようスタッフ一同は、関わっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370200297&SCD=370
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、社団医療法人新和会の運営する事業所の一つで、同法人の運営する病院、老人保健施設と隣接している。近隣に一般の住宅は多くはないものの、医療と福祉の施設が隣り合わせて設置され、その緊密な連携が図られており、この恵まれた立地環境が、利用者・家族、勤務する職員の安心・安堵感につながっている。経験豊富かつ意欲的・実践的な管理者の下、職員は「今日出来た 明日も出来る」を理念として、利用者の心を動かし、体を動かし、その人が出来ることを支援し、居心地の良い場所を意識してともに生活を送っている。利用者(9人)皆さんが女性で、その方々の殆どが、当事業所開設当初から一緒にともに生活をしてきており、真の姉妹のように、仲良く、口論もし合いながら、わが家のように過ごしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成21年11月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

【評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

自己評価および外部評価結果

事業所名： 認知症老人グループホーム柿の木ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今日もできた、明日もできる」というホームの運営理念を共有し利用者がそれぞれ有する能力に応じた活動の場をサービス計画に基づいて提供し日々の関わりを大切にしている。	開設後8年が経過し、利用者の年齢や状態も大きく変化していることから、今年度早々に「今日もできた、明日もできる」の理念に基づくケアの方向性を再確認し、利用者との目線を合わせながら新たな気持ちでケアの実践に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件もあり地域の方々との日常きな交流には無理があるが、柿の木ホームを理解して下さる多くの地域ボランティアのお力に助けられている。	利用者の状態等の変化や一般住宅の少ない立地環境のため「出かけての交流」からボランティアや高校生の福祉体験学習等、「来て頂く・受入れ(来所)を通しての交流」を多く取り入れながら、地域とのつながりを深めている。	利用者の状態等に合わせて、柿の木ホームならではの地域との交流について、推進会議・職員の意見等を得ながら取り組まれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別の場を設けて地域貢献している状況にはないが、訪問者は私どもスタッフの利用者との関わりを見て「勉強になります。」と言って下さる方がおられる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて委員の皆さんにホームの状況等を理解して頂くことはもちろんであるが、その時の会議のテーマにそれぞれの御意見。指導を重く受け止めサービス向上に活かしている。	市役所の助言により、会議の進め方を見直し、利用者の状況等の報告に合わせて、感染症対策など、毎回、「テーマ設定」をするなど、委員から助言等を得やすい形で進められ活発・有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	些細な事で電話連絡をとったり、困った時に指導を頂いたりのご迷惑をかけている。	事業所の運営に関することを含めて、どんなことでも分かるまで聴く、説明を求めることを心がけ、市役所職員との連携を図っている。散歩を兼ねて利用者とともに役所を訪問するなど、市役所職員の高齢者理解にも繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠・・・日中は開放している。身体拘束に関するホーム内研修を行い『拘束とは』を学び 拘束の無いケアを提供している。	居室に施錠はなく、玄関も、夜間の安全確保を除いて施錠はせず、普段は、チャイムで出入りの確認をしている。毎年、職員みんなで「身体拘束とは」の研修を行い、身体拘束についての再確認、意識の高揚・共有に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するホーム内研修を行いマニュアルを作成、スタッフ一人一人は利用者が心身ともに健全に明るく生活できるよう学びながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についてスタッフ全員が熟知している状況にはないがホーム内研修等、学ぶ機会を多く持ち具体的に活用できるよう努力したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、契約書・重要事項説明書の内容に本人、家族が十分な理解・納得を得てからの締結となっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別の機会を設けてはいないが、家族は何かあれば意見や要望を直接スタッフへ申し出てくださっている。	行事や面会等で来所の際など、いつでもどこでもを基本にして、家族等の連絡や要望等に耳を傾けるほか、意見箱も設置している。苦情等は、現在のところ特に無いとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスで行務改善等の意見を受け毎日の申し送りで日々のケア等の話を聞く機会を持ち、それらの意見を生かされるように取りはかっている。	職員会議やミーティングなどで意見を出し合っているほか、利用者のモニタリングに合わせて、職員から業務改善についても意見等を書いてもらい、設備や備品関係(車椅子など)において改善が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規定に時間外勤務・残業扱いの基準がプラスされ、資格取得に向け日勤扱いでの研修参加等、職員の資質向上に理解を示し大いにバックアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加するように指示を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会・沿岸北ブロックの一員として北ブロック11ホームの方々と交流会を行い、相互に刺激し合い悩みを打ち明けあったりして親睦を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の状況を良く理解する所から始まり、少しでも安心した生活を送れる様にかかわっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅での介護困難、それぞれの理由があり家族が安心してサービス利用が開始できるよう話し合い、情報を頂きながらより良い方向へ進めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階は利用者・家族・スタッフ等、皆が慣れて生活して頂けるだろうか？からのスタートで利用者にとって居心地の良いホームとなるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は私達スタッフの声掛けに安心の表情をみせる。家事等を通じてお互い様『助けられたり助けたり』の状況にある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	重要事項説明書に共に介護する姿勢をもってほしいとの記述がある。家族との食事会の機会を行事に取り入れ、少しでも共に楽しむ・過ごす時間を大切にと思い計画実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外泊、外出と入居の期間が長くなるにつれ薄れている。それぞれの家庭に事情も都合もあり協力頂ける状況にないが本人の記憶の中に少しでも回想できる事は日常的に話し掛けたり近隣へドライブと支援している	出かけての関係継続は、年々少なくなり、馴染みの美容院さんには来所してもらい、友人や知人、お茶のお弟子さんなどは、面会・来所を通しての交流が多くなってきている。今後は、回想等で思いを引き出し楽しい日々を送れるようにしたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の皆さんは日中ホールで過ごす方が多く、馴染みの方が側に一緒にいることが安心の様に思われる。車椅子の方の動き表情を気にしたりと優しい場面が多く見受けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、入院・他施設入所と面会等が困難な状況にあるが、退居者のなかには再度の入居申し込みをしたかたもおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好きな時間に起き、休む。本人の希望や様子、状況を見ながら声かけ確認をしながら対応している。	利用者の年齢の進行や状態等の変化に伴い、普段の会話から「思いや意向」を把握することが、だんだん難しくなっている。起床や朝食、就寝は、本人本位、好きなようにし、特に、声かけや寄り添いに心がけ対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックアセスメントシートによる情報や病院からの看護サマリーを提出いただき、本人の生活歴等の把握に努め不明な点は随時お尋ねし確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間アセスメントシートを利用し状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスを行い新たな問題点や継続サービス等、話し合いを行っている。家族には折りに触れ状況報告し介護に対する意向等をお尋ねしている。	最初の計画は、アセスメントや職員の24時間観察による情報を基にして、暫定的に作成し、その後は、職員の記録した経過記録やモニタリング(独自のシート)による状況や意見をまとめ、見直しの計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の行動記録は深夜帯・日勤帯・準夜帯に分け記録している。特記事項等、申し送りに必要な事項は業務日誌を通して職員間の情報共有のデータとなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の受診等、家族の都合や緊急時の対応に付き添いや通院の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	柿の木ホームは地域ボランティアさんの協力で支えられている。多くの刺激と楽しみを頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が併設病院の医師が主治医で適切な医療を受けている。状況により往診して頂き、その他にも様子を見にホームを訪ねてくれる。	利用者・家族の希望により、隣接の病院がかかりつけ医となっている。通院・受診は、職員が同行支援を行なうほか、利用者の状態変化に応じて、往診も行なわれている。利用者の生活状況等の様子を見るため医師の来所もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制のもと日々の利用者の心身の状況は併設病院の担当看護師に伝え、それを受けて状況をみに来て受診の指示を頂いたり支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院への入院がほとんどであり、毎日面会に行き、状況を確認し、双方の情報交換を行っている。退院に関しては医師の指示待ち。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今までも重度化、寝たきりの方等ケースバイケースで家族・医師との話し合いを行いながら家族の意向を支援している。	終末期等については「看取り指針」を作成し、家族や職員にも説明をしている。実際の看取り対応は、寝たきり等重度化への対応と同様に、その都度、家族や医師等と話し合いをしながら、個別に対応していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導や研修会・AEDの使い方・心肺蘇生方など初期対応訓練を定期的に行い急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は日勤帯・夜間帯と想定を変えて行っている。総合訓練には消防署・地域の方の協力を得ておこなっている。	消防計画を作成し、防火管理者も配置して、避難訓練も年に5回ほど実施している。スプリンクラーの設置も、近く予定されている。避難訓練には、地域の方々の参加もあり、いざという時の避難誘導の協力の了解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者お一人お一人を理解し「行動、言動」その方にあった言葉かけや対応にきをつけ接している。	「利用者への声かけマニュアル」「聴くスキルアセスメント」などを活用して、利用者の尊厳やプライバシーを損ねないように、再確認しながらケアを行い、「怒りやすい人」「耳の聞こえにくい人」など、一人ひとりにあった対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声を掛け、確認をとり支援する。日常的なスタッフの行動である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声を掛け、気づきを与え、お一人お一人の意思決定を重要視し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔をモットーに、年々自分で出来る方は減っているが、その人らしい身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることへの『出番』を支援しながら、意欲に圧倒されながら、利用者と共に家事を日常的に行っている。	「利用者とともに行動する」という考えのもと、食事づくりから配膳・下膳の流れの中で、どんなことでも「できること」を通して、それぞれ参加している。お隣同士や職員と姉妹のように寄り添い、笑顔で、楽しそうに、美味しそうに食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	有難い事に三度の食事、おやつと残食無し。必要に応じ粥食、キザミ食を提供しトロミをつける等、状態にあった食事形態で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、義歯洗浄の声掛け介助を行い、夜間は義歯のポリデント洗浄（消毒しましょうの声かけで）支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄用具の使用者は年々増加しているが排泄チェック表を確認しながら失禁を未然に防げるようトイレ誘導の支援をしている。	利用者の状態変化により、開設当初よりは排泄用具の使用は増えてはいるものの、排泄チェックを重ねながら、一人ひとりのパターン把握・共有して、できるだけ失敗がないように、その声がけや誘導、見守りに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方には朝ヨーグルトやヤクルトをガンコな便秘症の方もおりセンナ茶を水分補給に使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は月曜日から土曜日の午後行っているバイタル確認し、本人の意思確認後に入浴して頂いている。	日曜日を除いて、清潔の保持のため、利用者が、概ね週3回を目安に入浴できるように努めており、利用者の希望により、午後の入浴となっている。一人で歌を歌ったり、職員と会話をしたり、それぞれに気分よく入浴されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールのソファや自室で・・・夜間は自室で安心して休んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者各々の服薬示表を確認し、医師の指示に基づき服薬支援し、異常があれば連絡をし指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックアセスメントシートを基に好きだったこと・得意だったことを活かした支援や、日常的なドライブ外出等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物、への誘い・ホーム周りの散歩・家族との外出・ホーム企画のバスハイク等・・・家族の協力、理解を得ながら支援している。	「利用者とともに行動する」という考えのもと、普段は、ゴミだしを兼ねての事業所周辺の散歩や食材などの買出しなどに出かけるほか、時々、家族の協力を得て、外食や花見などのドライブ・バスハイクなどにも出かけ、運動を兼ねながら気分転換も図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持している方はいない。必要に応じ家族に預かった、おこずかいで買い物支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と会う機会の無いかたには時々、声を聞いて頂く通話の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	8年間、変わらぬ共用空間にある。季節の花や行事の飾りつけ等により生活感や季節感を出せるように工夫し季節の変化に分かりやすく配慮している。	玄関から廊下、食堂兼居間など、事業所全体が広々として明るく作られている。壁には、敬老会などの行事の風景写真、利用者手づくりの作品(刺し子など)が可愛らしく飾られている。玄関先や食堂等には、ポインセチアなどの花も置かれ、季節感を感じさせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の皆さんはそれぞれに、お気に入りの場所があるようで好きな場所からの好きな眺めのポイントを持っておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	重要事項説明書に使い慣れたものを準備願いたいと記してある。家族はそれなりに生活し易く配慮くださり、また混乱防止のために寝具のみの方もおられるが、利用者の皆さんは居心地よく過ごされている。	畳にベッド、壁には、家族などの写真、カレンダー、掛け時計をそれぞれの場所に飾り、着替えなどは、備え付けの押入れにきちんと整理するなど、こじんまりと清楚、落ち着いた雰囲気の中で過ごされていることが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の壁は手すりが随所に設置しており、トイレ・浴室の明示、各居室には表札と判断し行動できるよう工夫されている。		